

学部案内

2023



おもしろい
人学

国立大学法人

富山大学 芸術文化学部

University of Toyama : School of Art & Design

芸術文化学科

美術領域

工芸領域

デザイン領域

建築領域

キュレーション領域

複合領域

NEXT
VISION
JAPAN

伝統を疑え。



伝統を疑え。

芸術文化を社会に展開することで、
地域が抱える課題を解決し、
伝統的な文化から
次の世代にふさわしい価値を創出する。

NEXT VISION JAPAN



芸術は「魅力づくり」の原動力。

古来より「芸術」が担ってきた役割は、
「人間らしさのあり方を提示する」ことでした。
だからこそ、芸術がもつ「美意識」や「独特な発想」は、
企業活動から地域作りまで、社会のあらゆる場面において
それぞれの質を高め、魅力を創り出す原動力になってきました。
しかし、近年のICTの発展に端を発する急激な産業革新と社会の変容は、
日々の生活のみならず、生きる価値についてまで、
人々にあらたな順応を求めています。
ならば、これから求められる芸術の役割は、
「次の世代にふさわしい、魅力ある人間らしさの提示」です。
その担い手となるのが、芸術なのです。

世界に発信すべき地方の文化。

地方の駅前では空き店舗が目立ち、
伝統産業では、後継者不足による衰退が深刻な問題になり、
まちの人々は永きに渡る祭事の継承に悪戦苦闘しています。
伝統的な産業や文化と、情報化された現代社会との交差点で生まれる
切実な課題が地方にはいくつもあります。
そんな地方の現実を教材として捉え、
モノだけでなく体験に価値を求めるコト、
それらが総合的に展開されて生まれる「文化」を、
地域のみなさんと共に考え、世界へ発信していきたいと考えています。
日本が世界に向けて発信すべきは文化なのです。

富山をキャンパスに地域と連携した

『実践教育』

芸術文化学部がある富山県には3千メートル級の山々が連なる雄大な立山連峰や、ユネスコの世界文化遺産に認定された五箇山合掌造り集落、無形文化遺産に認定された3件の「山・鉾・屋台行事」があります。また高岡市には、江戸時代以来の鋳物や漆器等の伝統産業や、国宝瑞龍寺、重要伝統的建造物群保存地区に選定された2箇所の古い町並みなどの文化資源があります。これらの恵まれた環境を活かし、地域をキャンパスとした『実践教育』を行っています。20年余り前から全国の大学に先駆けて取り組みを開始し、継続する中で、行政や企業、自治体などと組織的な連携体制を確立しています。実践教育は、教科書から学ぶことが難しい経験的知識や技術を身につける上で効果的であると共に、目標を達成する責任感や、自ら考えて行動していく主体性を養うことができます。

「地域連携授業」と 「プロジェクト授業」

地域の現実的な課題をテーマとし、近隣の作家、職人、デザイナー等から指導を受ける授業や、関係者と協力して進める授業を「地域連携授業」としています。また、特定の課題を挙げて、問題発見及び解決までの過程、手法を実践的に学ぶ授業を「プロジェクト授業」として、共に実践的な学修機会として取り組んでいます。

学生の作品発表拠点 「芸文ギャラリー*」

高岡市中心市街地に設置している「芸文ギャラリー」は、授業成果や学生の自主制作を発表する場です。例えば、博物館実習の授業では、ギャラリーの企画展を実施しながら関連する知識や技術を学びます。また、学生サークルの自主企画展では、作品制作からパッケージデザイン、値付けや商品管理、接客までを学生が自力で運営します。

公立美術館の企画展示室で 開催される卒展

芸術文化学部および、大学院の「卒業・修了研究制作展」は、地域の関係者と実行委員会を組織し、高岡市美術館の企画展示室を使って開催しています。卒業生と修了生は、公立美術館での展示を充実した内容にすべく、展示方法にも力を注いでいます。在学生も広報やイベント活動を分担して創り上げています。

もっと!!

芸文WEB「実践教育」



プロジェクト授業：ミラレ金屋町

高岡市の金屋町を舞台にして、町屋の魅力を発信、金屋町の住民と交流できるイベントが「ミラレ金屋」です。



芸文ギャラリー* 授業成果や学生の自主制作の展示を行っています。

学生サークルの人気企画展「雑貨屋 Tommy Dining」(写真左)、「越中万葉百歌」をテーマにした学生と教員有志による企画展「芸文の扇子展」(写真右上)、クラフトデザインの授業成果発表「Gift(ギフト)」展(写真右下)



卒業・修了研究制作展

芸術文化学部創設時から高岡市美術館の企画展示室で公開しています。



芸術文化の原動力、多様性を自分のものにする

『融合教育』

何かを創りだしていくためには、異なる考えを持った人と交流し、領域を横断して知識や技術を学び、それらを組み替えることが効果的です。芸術文化学部では、多様な素養の学生が集い、共に学び、お互いの考えを理解する中で、創造性が発揮できるよう次のような工夫を行います。

- 実技検査(鉛筆デッサン)と小論文を選択できる入学試験
- 学生個人の適正や志望に応じて自在な履修の組み合わせが可能なカリキュラム
- 学生の履修計画や進路志望を気軽に相談できる学年指導教員制度と、メンター教員制度によるサポート体制
- アクティブラーニング(グループ討論等をふくむ能動的授業)やPBL(問題解決型授業)を取り入れた「地域連携授業」と「プロジェクト授業」
- 学部の全教員を対象に卒業研究・制作の指導教員を決定していく制度

それらを総合して実施しているのが芸術文化学部の『融合教育』です。

もっと!!

芸術WEB「融合教育」



オープンコース方式の導入

2022年度からは、従来のコース所属制度を廃止したオープンコース方式を実施します。学生は自分の適性や志望の変化に応じて、すべての領域の授業を履修することができます(受講環境により、一部の科目で履修制限を設ける場合があります)。この学部で学べる芸術と文化に関する6つの専門領域に対して、入学時から進路が明確な学生は、その志望に必要な学修を突き詰めることができます。また自分の志望が不明瞭な学生は、6領域の専門科目を自在に履修しながら、入学から3年次の間で、じっくりと進路を見つけ出していくこともできます。

異なる素養の学生が共に学ぶ環境

芸術系の大学はデッサンなどの実技ができなければ入学できないと思われていますが、芸術文化学部では、小論文でも受験できます。「デッサンは描いたことがないけどクリエイティブな仕事がしたい」などの属性の学生と一緒に学ぶことで、多様性のある学修環境がつくられています。

五福キャンパスで他学部生と学び、交流する1年次

富山大学では教養教育の一元化を実施。1年次は富山市内の五福キャンパスで、他学部生と共に教養教育科目を学びます。また1年次の芸術文化学部の専門教育科目も五福キャンパスで開講します。

教員の数だけ専門性があり、学生の数だけ進む道がある

オープンコース方式による自在な履修と、自分の適性に呼応した教員との出会いの中で、4年次に取り組む「卒業研究・制作」のテーマが決まっていきます。指導教員の決定は学生の希望が優先されます。希望は芸術文化学部のすべての教員が対象となります。

実社会のさまざまな活躍現場へ

大学院(人文社会芸術総合研究科)

●さらに高度な専門へ

つくり手

創造的活動を通して
社会に豊かさを供給できる人材

つかい手

既存のもの、こと、
空間を使いこなせる人材

つなぎ手

様々な要素をつなげて、
あらたな価値を創造できる人材

●学士(芸術文化学)取得

芸術的思考や技能、マネジメント力を文化創出に活かす人材

卒業研究・制作

すべての学部教員の中から指導教員を決定します

●多様な選択肢

全領域の教員から指導教員
を希望可能。最終的な修学の
まとめと進路を助言します。

●地域連携授業

●プロジェクト授業

アクティブラーニング
PBL(問題解決型授業)

●オープンコース方式

コース所属を廃することで履修
制限を自由にし、学生1人ひと
りの適正や興味に応じて、自分
に必要な専門科目を自在に選
択できる履修方式です。
入学から3年次までの期間をか
けて、自分に適する専門性や進
路を絞り込んでいきます。

●領域横断型の科目群

1年次には、各専門領域に共通
して必要となる基幹的な専門教
育科目を学修し、2年次以降の
専門性の高まる修学に備えます。

●他学部生との交流

●異なる素養の学生

専門教育科目

主要な各領域に特化した専門科目を自在に履修

美術領域

工芸領域

デザイン領域

建築領域

キュレーション領域

複合領域

P.08
-09

P.10
-11

P.12
-13,
16

P.14
-16

P.16
-18

P.19

専門教育科目

主要な専門領域に共通して必要となる基幹的な科目を履修

教養教育

芸術文化学部

人文学部

教育学部

経済学部

理学部

工学部

医学部

薬学部

都市デザイン学部

4年次

●修学のまとめ

●指導教員決定

●メンター教員制度(各年次ごとに芸文の教員が、学生個々の履修計画のサポートを担当します)

3年次

●特化した専門性を探求する学修段階

●各学年指導教員制度(各年次ごとに芸文の教員が、学生個々の履修計画のサポートを担当します)

2年次

1年次

●基幹的な学修段階

高岡キャンパスでの受講
五福キャンパスでの受講

入学試験では、実技検査(鉛筆デッサン)と小論文から選択

実技検査(鉛筆デッサン)

小論文

この他に特別選抜では面接、一般選抜では大学入学共通テストが課される

○入試についてはP.22-23をご覧ください

突き詰めるもよし、幅広く知るもよし
あなたらしい学び方で、あなたに合った道を見つける。

『芸文で学べること』



取得可能な資格

所定の単位を修得することで取得できる資格

学芸員資格

所定の単位を修得することで受験資格が取得できる資格

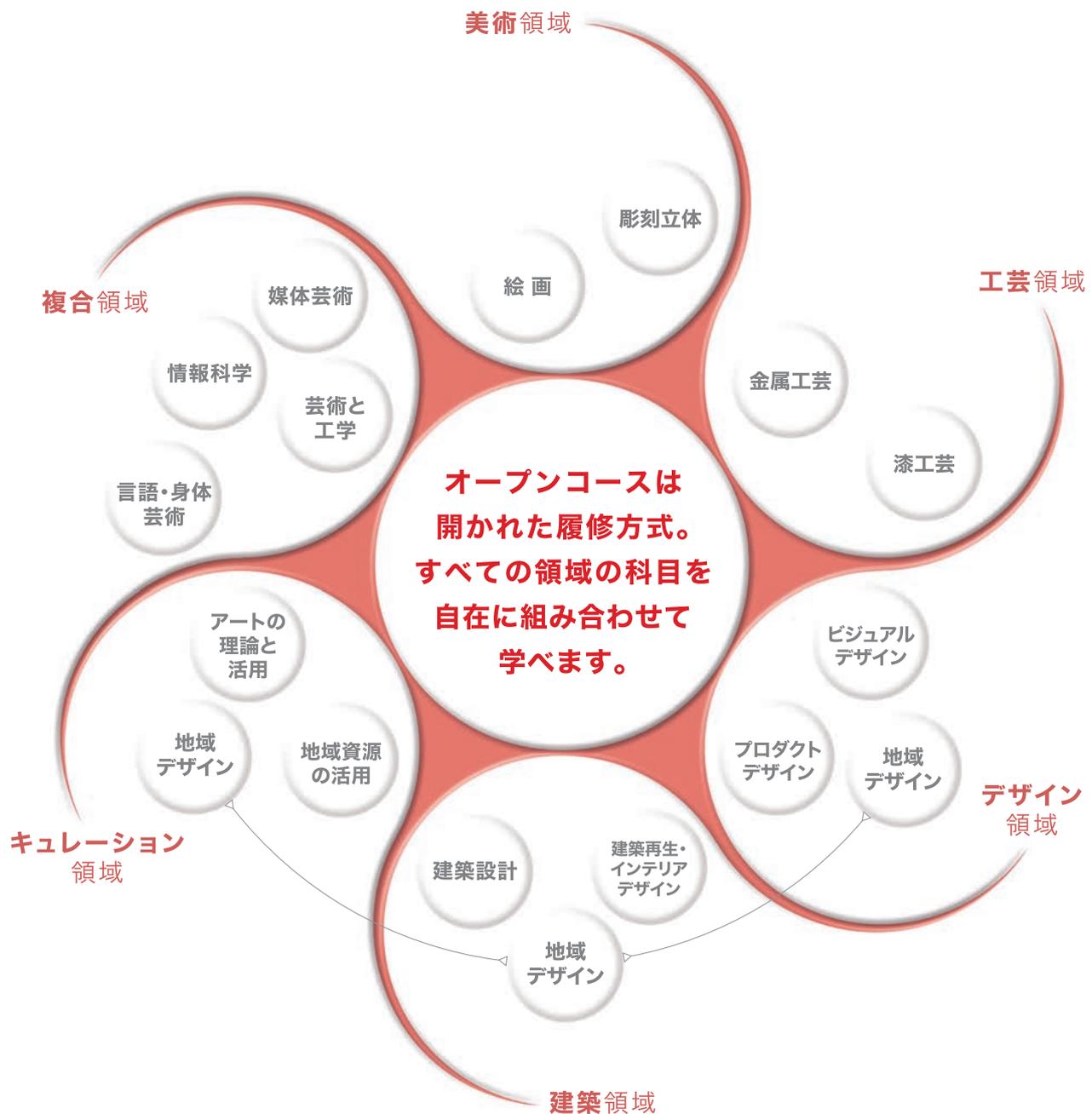
一級建築士、二級建築士、木造建築士

所定の単位を修得することで受験資格を取得するために必要な実務経験年数を短縮できる資格

1級土木施工管理技士、2級土木施工管理技士、1級建築施工管理技士、2級建築施工管理技士
1級電気工事施工管理技士、2級電気工事施工管理技士、1級管工事施工管理技士、2級管工事施工管理技士
1級造園施工管理技士、2級造園施工管理技士、1級建設機械施工管理技士、2級建設機械施工管理技士
1級電気通信工事施工管理技士、2級電気通信工事施工管理技士

芸文の学びと関連が深い資格〈関連科目を学ぶことにより、その資格分野の技術・知識を得ることができる資格〉

宅地建物取引士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、マンション管理士、マンションリフォームコーディネーター
情報処理技術者、カラーコーディネーター、福祉環境コーディネーター、知的財産管理技能士





豊かな視点と観点で 新しいストーリー を生み出す

絵画の制作風景

美術領域

絵画

絵画の授業では、日本画、油画専攻の学生が同じアトリエで制作を行います。様々な技法や素材の中から試行し、自らの造形感覚を高めていく中で、独自の芸術表現の確立を目指します。



修了制作「Here」/加納萌子(2020年度修了)



地域連携 作品展示
ほくぎんアートギャラリー

北陸銀行ほくぎんアートギャラリーにて、年間を通して絵画の授業成果作品の展示を行っています。作品を外へと発表する機会でもあり、学生と地域とのつながりの場となっています。



プロジェクト授業 絵画を学ぶ
LIVING ART
in TOYAMA

富山市大山地域で行われているデザイン・アートイベント「LIVING ART in TOYAMA」の企画・運営に携わり、コミュニケーション力や実行力を養います。絵画のスキルを生かして制作した34mの壁画の前は、市民の憩いの場となっています。



専門科目 絵画を学ぶ
絵画に関する基礎知識

油絵具、日本画画材などの画材を用いて基礎的な制作に取り組みます。自画像、植物画、静物画などの制作を通して、様々な画材や表現を試行することで、制作する手順や絵画制作の基礎的な表現技法への理解を深めます。

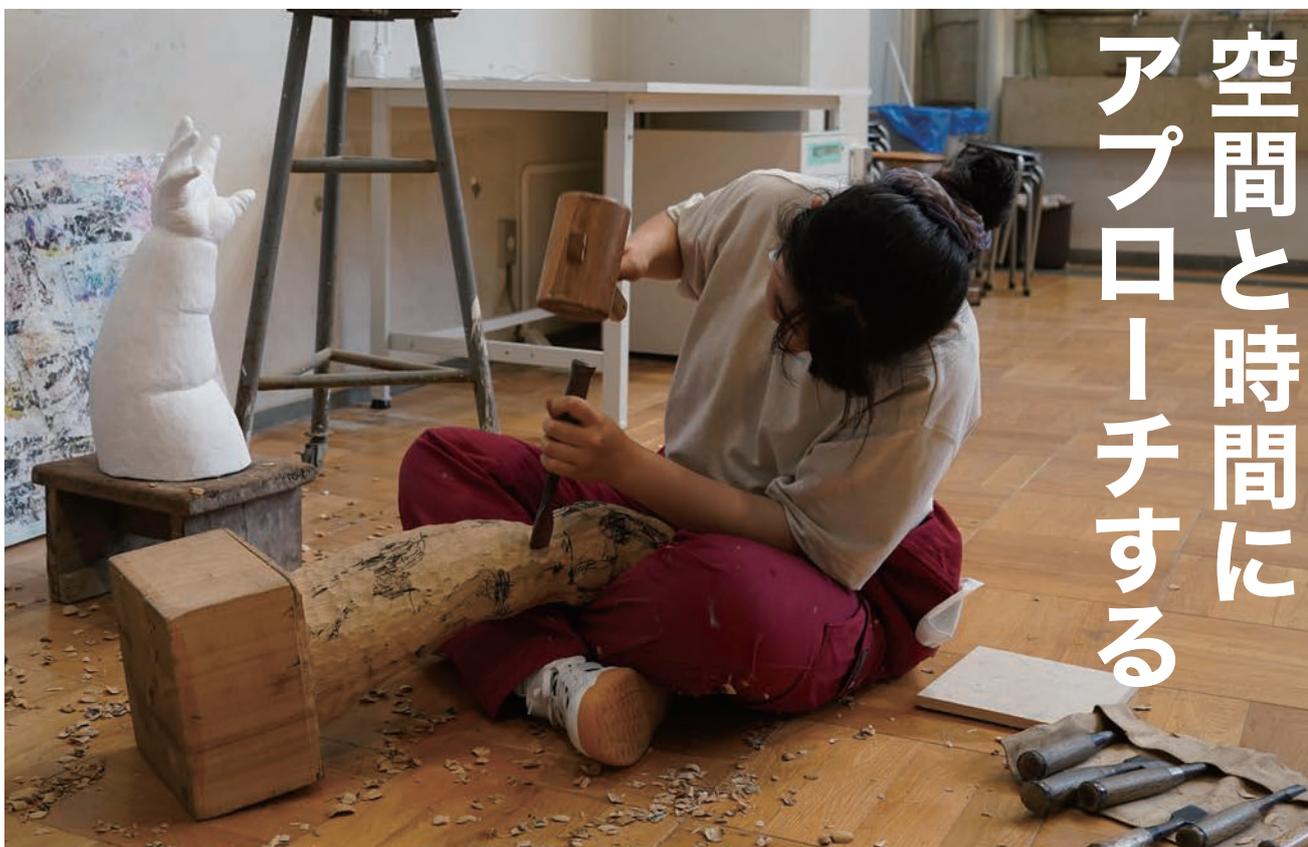


卒業制作 絵画作品
乞い願わくは

新藤美希(2020年度卒業)

本作品は日本画専攻の学生の卒業制作です。「祈り」をテーマにした、日本画画材ならではの優しい色調で統一された画面が美しく、人物の表情が印象的です。

思考と手わざで 空間と時間に アプローチする



木彫室での授業風景

美術領域

彫刻立体

彫刻は単に立体的な形を作るというだけの領域ではありません。空間を彫り、時間を刻む、様々な試みが過去から多くの彫刻家によって実践されてきました。造形スキルのみならず、理論や歴史文化についての理解を深め、「考え方」に重点を置き、手わざとともにそれを深化させることを目指します。



卒業制作「正味期限」/小林美波(2018年度卒業)



専門科目 造形技法を学ぶ
立体造形に関する実習



専門科目 表現を広げる
現代アートを学ぶ実習



専門科目 場との関わりを考える
インスタレーション実習



課外活動 在学生作品
3年次自主制作

藤井朱里「Tira mi su!」

塑造を扱う実習授業では、彫刻・立体造形を行う上で必要となる芯棒の作り方や粘土の扱い方など、基礎から応用技法までを各自の制作計画にあわせ、授業の中で個別に相談しながら実践の中で身に付けていきます。

現代アート表現を学ぶ授業では、近代以降～ポストモダンまでを振り返りながら、自身が作品を作る上で重要となる「抛り所」を抽出することで作品コンセプトを明確化し、作品表現へと展開します。

空間との関わりをテーマにインスタレーション作品の制作を行います。学生それぞれが学内のいたる場所を展示場所とし、場との関わりや現況の考察をテーマとした作品を空間と共に生み出します。

この作品は、愛に見返りを求めてしまう葛藤を表現した作品で、授業時間外に自主制作された意欲作です。夏休みや春休みの長期休業期間中も、大学のアトリエを使用して制作することができます。

硬くて冷たい…
そうでもないよ



卒業制作「オノマトペのジュエリー」/川寄菜々子(2019年度卒業)

工芸領域

金属工芸

金属は硬くて冷たい？ 確かに…。
でもそんな印象を覆すような
多彩な表情を生み出すことができます。
手仕事を基本とした技法を学び、
その可能性を探求する力を育みます。



卒業制作「hug vase」/宇津木咲重(2019年度卒業)



共通科目 金工を学ぶ
金工の基礎演習



特色科目 鍛金・彫金を学ぶ
鍛金・彫金の実習



特色科目 鋳金を学ぶ
蠟型・精密鋳造の実習



特色科目 鋳金を学ぶ
込型鋳造の実習

ジュエリーの制作を課題とすることで金工技法の基本を学びます。切削や曲げ、口ウ付けによる接合、研磨など金属材料を直接、加工する技法を学ぶとともに材料や技法に応じた造形力を養います。

金属材料を直接、加工・成形する技法を学びます。金属の持つ塑性という性質を活かした鋸絞技法による作品制作を課題として、材料と多様な技法の特性を理解し、その魅力を引き出すものづくりの力を育みます。

金属材料を高温に熱して溶かし、鋳型へ流し込んで形をつくる鋳金の技法を学びます。口ウで作った形がそのまま金属となる精密鋳造技法での作品制作を課題として、鋳物ならではの魅力を活かす力を育みます。

伝統的な鋳造技法を学びます。水と土と火を使って手仕事で作り上げていく過程を通して、ものづくりの感性と技術を育みます。

確かな 技術に基づく、 豊かな表現



卒業制作「蛾文蒔絵八角箱」／高橋茉莉(2019年度卒業)

工芸領域

漆工芸

漆(うるし)という自然素材を相手に、
伝統技法を基本として
手で感じ学ぶ事を大切にします。
先端技術にも目を向け、
これからの時代を見据えた表現手段を
身につけます。



卒業制作「Bison」／小泉巧(2015年度卒業)



専門科目 漆基礎
素地、髹漆



専門科目 漆加飾
蒔絵



専門科目 漆加飾
螺鈿



専門科目 卒業研究・制作
乾漆蒔絵飾箱 ウミウシ

湯澤花菜(2018年度卒業)

漆の基本的技術が凝縮している漆塗装を通して、漆工芸の基礎を学びます。素地から布着せ、下地、研磨、上塗り、呂色仕上げ、それぞれの工程に使用する用具の仕立までを通して行うことで、漆工芸の世界を知り、その後の表現の土壌を作ります。

研ぎ出し蒔絵、平蒔絵それぞれの技法、特徴を、他素材との併用も視野に入れ学びます。下絵(線画)の作成と同時に、素材の特性理解、基本的技術の習得を蒔絵の表現力向上へと繋げていきます。道具の構造、粉筒、針木砥などの道具づくりも学びます。

漆工芸の基礎的な加飾技法である螺鈿を学びます。螺鈿技法は貝の種類や加工方法によって多彩な加飾表現を行うことができます。切り抜き、酸抜き、打ち抜き等の加工技術を実践し、厚貝螺鈿から薄貝螺鈿、それぞれの特色を制作を通じて学びます。

卒業制作では漆芸伝統技法、木材加工などに加え、CAD、3D出力などの先端技術なども駆使し、今までに積み重ねてきた技術力、表現力をふんだんに使い、4年間の学びの集大成としての作品を制作します。

新鮮な発想力で

最適解を

見つけ出す



デザインの導入授業(平面課題)/Tシャツ「GEIBUN & TOYAMA」

デザイン領域

ビジュアルデザイン

ビジュアルコミュニケーションを通じて、
カスタマーへ発見や気づきを提供する
地域ブランディングやコミュニケーションデザイン、
パッケージなどのデザインに取り組み、
幅広い領域のデザイン専門職に
つながる教育を行なっています。



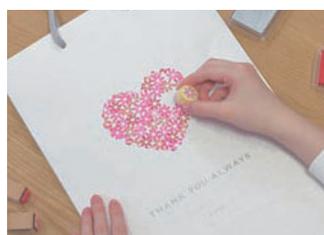
高岡クラフト市場街「職人スタンプラリー」



専門科目 デザインの基本を学ぶ
ビジュアルデザインの導入



専門科目 マイステーションナリー
ビジュアルデザインの基礎



地域連携 ワークショップ企画
THANK YOU ALWAYS



卒業制作 グラフィックデザイン
百人一趣

寺本真志帆(2019年度卒業)

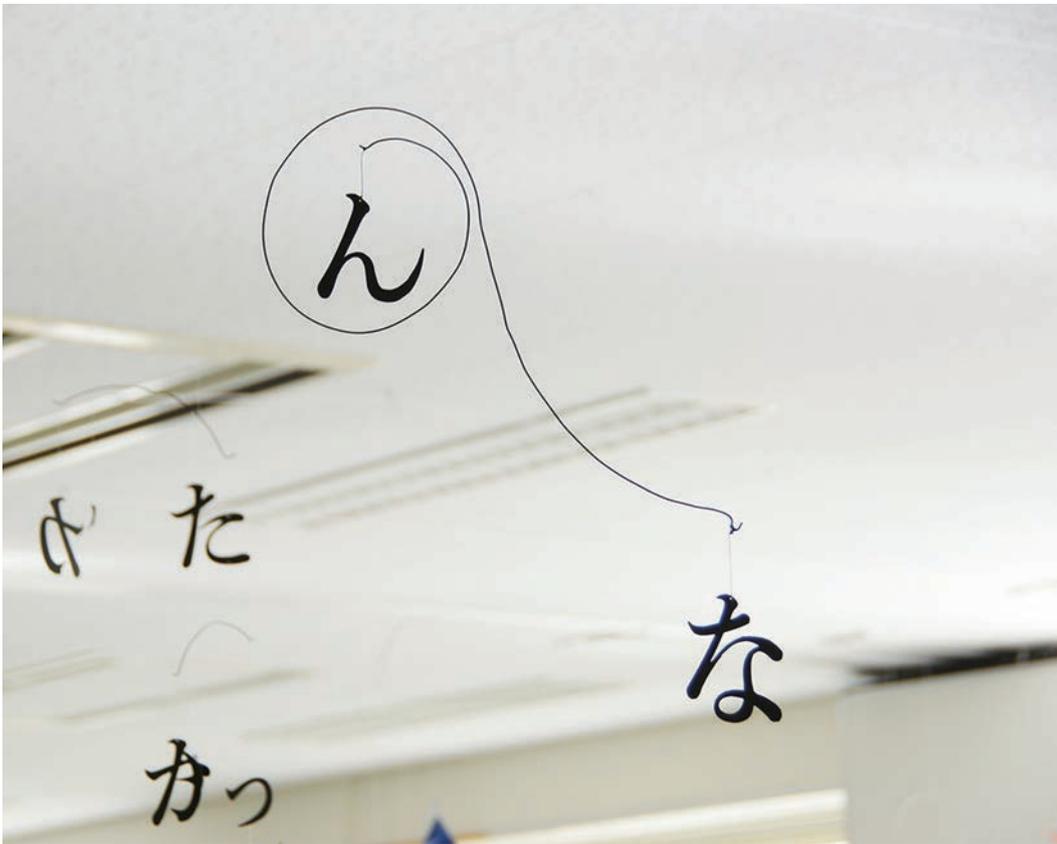
基本的なデザインの考え方、発想の方法、視覚化および立体化のための演習として、平面課題(バッジ&Tシャツ)と立体課題(ダンボールスツール)に取り組みます。

ビジュアルデザイン表現の基礎としてロゴマークの制作とレイアウトデザインを学びます。マイロゴをレイアウトしたマイネームカード、自分をアピールするマイネームカード、自分をアピールするマイチラシ、自分をブランディングするマイステーションナリーの制作に取り組みます。

イオンモール高岡にて、金屋町の石畳をモチーフにした世界にひとつだけの贈り物をコンセプトに、ラッピングバッグとメッセージカードを作るワークショップを企画・デザインしました。

万葉集ゆかりの地である高岡において、百人一首をテーマとした卒業制作。具象的すぎると、読み手の想像を損ねてしまう。抽象的すぎると新たな興味を抱くことが困難となる。具象と抽象のほどよいバランスをとりつつ描き出しています。

人に愛される
モノを
生み出す



デザインの基礎科目(プロダクトデザイン課題) / 富山弁モバイル「な〜ん」

デザイン領域

プロダクトデザイン

人の未来を提案するカーデザインや生活家電、
感覚を揺さぶる生活雑貨や
エンターテインメント系デザインに取り組み、
大手メーカーの専門職につながる
教育を実践しています。



デザインの展開型科目(プロダクトデザイン課題) / 水滴のような手袋「mizutama」



専門科目 とやまモバイルをつくる
製品デザインの基礎

「富山らしさ」のあるモバイルを提案します。デザイン基礎力の向上を目的にプロトタイプモデルまで制作し、デザイン力、制作力、社会展開力を養い、社会的評価までを含めた総合的なプロダクトデザインを学びます。



専門科目 プロジェクト型授業
製品デザインの実践

地域と連携したテーマ「地域×芸文のプロダクト」に取り組みます。デザイン展開力の向上を目的に、富山県および県内企業と連携した密度の高いプロジェクト型授業です。連携企業が求めるテーマに対し、芸文のユニークな提案でこれに応えていきます。



卒業制作 STEAMデザイン
水紋の器

且味咲希(2019年度卒業)

芸術だけではなく、STEAMといった科学や技術等が含まれている新しいプロダクトデザインです。水が入ったガラスの器に強弱も含めた波(周波数)を作り出し内蔵された照明効果により、周りの空間に美しく心地よい水紋が映し出されます。



卒業制作 モビリティデザイン
b bike

横山輝(2020年度卒業)

シンプルな平面から機構が飛び出し変形する一人乗りのEVバイクです。制作は県内プロトタイプ製造企業や富山大学工学部機械工場と協力し、機構設計や実装も含めて進めたユニークな卒制プロジェクトとなっています。

新しい営みを 生み出す

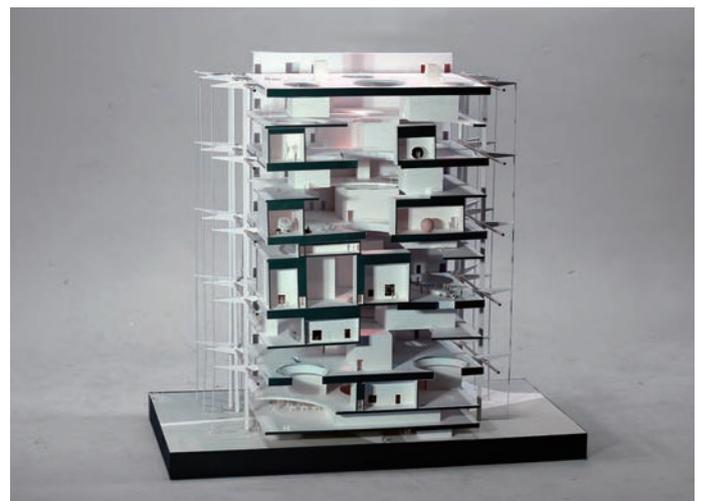


シェルター制作

建築領域

建築設計

理論講義や設計演習、実寸大制作を通して、芸術と工学、実践と理論の統合プロセスを学習し、構造・構法と意匠に立脚した空間表現の技法を習得することで、発想力・設計力やプレゼンテーション能力を発揮できる専門人材を育成します。



富山市環水公園に沿って建つ、近未来の美術館を題材とした卒業設計
中島晃一(2018年度卒業)



専門科目 建築家の視点で捉える
人と空間の関係を学ぶ

建築家の目で見つ「人が世界を組み立てる方法」を読みといていく講義です。過去には、一枚の布を纏うことが人と世界のあり方を変えてゆくことを講義した後、受講生全員でワンピースを制作し、成果を図書館ファッションショーで発表しました。



専門科目 シェルターをつくる
実寸建築の体験

スケッチ、模型、図面を作成し、それをもとに実寸大で建築を制作する演習。協働作業を通してチームワークを学ぶとともに、実際の空間を作ること、スケール、素材、強度を体験的に学びます。



専門科目 設計を学ぶ
時間と空間の設計

戦災で歴史を消失した富山市に、現代の都市の活気を満喫し、かつ古(いにしえ)の富山を感じることができる集合住宅を計画することで、自由に現代的な美学に基づいて設計する能力を習得します。



専門科目 設計を学ぶ
空間デザインの演習

富山市の城址公園の一角に、メディアを納める図書館を設計する3年生の課題です。この修学段階に入ると、多少複雑なプログラムを扱い大胆な建築を設計できるようになります。

風土を感じる 空間をつくる



空間デザインの授業風景

建築領域

建築再生・ インテリアデザイン

自身でデザインした家具の制作や実測調査した伝統的建築や町家の再生計画を詳細に提案することを通して、インテリアデザインや建築再生の現場で活躍できる専門人材を育成します。



氷見の倉庫改修プロジェクト



専門科目 インテリアを学ぶ
椅子と人と空間の関係

名作椅子を実測し、図面・模型をつくれます。それを生かして椅子をデザインし、原寸大で製作します。人間と椅子・空間と椅子・人間と空間の関係について学びます。



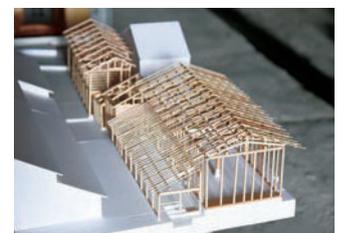
専門科目 設計を学ぶ
木質構造を設計する

金屋町に新しい仕事場と住宅を設計する演習。町家の軸組模型を制作し木造を学び、伝統的な構造や技法を理解して、設計に取り組みます。日本近世の建築美学を体現する住宅をつくれます。



専門科目 設計を学ぶ
建物と空間の再生

伝統的な町家の実測を行い、既存の図面を作成し、それをもとに学生シェアハウスを設計する演習です。建築再生の基礎について実践的に学びます。



地域連携 設計を学ぶ
氷見の倉庫改修プロジェクト

富山県氷見市にある倉庫を学生シェアハウスにリノベーションする設計演習。倉庫の軸組模型を制作し、プランを検討します。最後は、地域で発表会を行いました。



地域の資源を編集し 新たな価値を デザインする

卒業制作「記憶する家」町家を活用した展覧会のキュレーション／亀山文音(2021年度卒業)

建築・キュレーション・デザイン領域

地域デザイン

フィールドワークを通して歴史・伝統・文化などの地域特性を明らかにし、よりよい地域づくりを目指して空間・モノ・仕組みを実践的にデザイン提案します。それにより建築・キュレーション・デザインに関する知識・技術を横断的に修得し、未来の地域を創造するまちづくり専門人材になることを目指します。



高岡の魅力をおんサイトと、オンラインで発信する「高岡クラフト市場街」



専門科目 地域のリノベーション
商店街活性化のための
空間デザイン

小矢部市の石動商店街をフィールドに、現地調査やヒアリングを行い、その特徴や課題を視覚化。その分析結果に基づき、具体的な建物や場所に焦点を絞り、ミクロな視点から具体的なデザインやしかけの提案を行いました。



地域連携 ミラレガイドツアー
プロジェクト授業
ミラレ金屋町

高岡市の金屋町を舞台にして、町家や町並みの魅力を発信するイベント「ミラレ金屋町」。その一貫として、まちを巡るガイドツアーの企画・運営を住民と協働で行います。



地域連携 フィールドワーク
呉西地区の伝統工芸品調査

高岡銅器、高岡漆器、越中福岡の菅笠をはじめとする富山県西部の伝統工芸品について、ヒアリング、工房視察、工芸体験などを通じた実態調査を行い、報告書をまとめるとともに「新しい体験メニュー100の提案」を策定し、自治体や関係団体へ提言を行いました。



地域連携 野外美術館における展示
GEIBUNオープンエア
ミュージアムin環水公園

県の代表的な公園である富岩運河環水公園に芸文の作品を展示する期間限定の野外美術館構想。公園に隣接する富山県美術館との共催。学生や教員、OBOGも作品を出品。ワークショップや作品公開制作など多様な取り組みで地域を盛り上げます。

地域という 文化資源を 磨き上げる



地域の産業が生み出した文化的な風景の調査

キュレーション領域

地域資源の活用

地域の伝統文化や地場工芸産業の振興に携わる公務員やNPO職員、文化の継承や観光活動を通じて地域活性化に関わる法人、旅行業等を目指す学生のための教育プログラムです。地域が育ててきた祭礼や伝統産業、風景といった文化的な地域資源の活用について系統的に学びます。



三郎丸蒸留所(北陸唯一のウイスキー蒸留所)の見学



地域連携 高岡水辺マップ
高岡元気発信プロジェクト

高岡市内の水資源に注目し、「高岡水辺マップ」を作成しました。伝統産業の町のイメージが強い高岡に、意外な一面があることを地域の人達と共有したいという思いで、編集に取り組みました。



地域連携 地域応援プロジェクト
福岡町つくりもんプロジェクト

福岡町つくりもんまつりの学生による応援プロジェクトとして情報発信の支援やオンライン開催、大学でのリモート開催などの協力を行いました。



地域連携 地域応援プロジェクト
越中福岡の菅笠振興プロジェクト

越中福岡の菅笠(すげがさ)の振興を目的に、菅笠の制作体験を行うとともに、呉西地区の観光モデルツアーを作り、菅笠を被って巡回いたしました。



地域連携 展示を学ぶ
ミラレ金屋町・展示班

富山県高岡市の金屋町で行われているアートイベント「ミラレ金屋町」において、本学部が収蔵している金工・漆工・木工の作品を展示しました。学生が主体となって、企画から展示まで、互いに協力しながら行っています。

アートと人を繋ぎ アートの 行く先を照らす



博物館実習

キュレーション領域

アートの理論と活用

美術館、博物館の学芸員や、芸術活動に関わる公務員、NPOの職員などを目指すための教育プログラムです。西洋、東洋、日本の各美術史や美学等の理論的諸科目に加えて、基礎となる実技初歩や博物館学、実践的展示活動、文化財活用、アートマネジメント等を学び、専門的職業人としての素養を身につけます。



アートプロジェクト「地域/私のヴァナキュラーをめぐる旅」



専門科目 博物館学芸員資格関連
博物館での現地実習

4年生の博物館実習では、美術作品の取り扱い、梱包、調査、展示方法などについて実習します。また夏休みを利用して、学外の博物館・美術館で8日間の実習も行います。これまでの博物館学の学修を総括する実習です。



調査研究 学内収蔵品の企画展示
「大郷コレクションの
青銅花器-炎の想い、
花の願い」展

学部が収蔵する工芸作品の調査研究を行い、企画展を開催しています。学生も参加し、皆で作品調査を行い、作品解説執筆や展示作業を実習します。博物館における企画から展示までを体験し、日ごろの学修を深めます。



調査研究 作家によるレクチャー
「アートと地域の協働を
キュレーションする」研究会

詩人の松井茂さんをお招きして「方法詩の実践と社会との関わりについて」をテーマにレクチャーしていただきました。松井さんの詩の制作を手がかりに、芸術祭やアートプロジェクトとは異なるアートと地域の新たな協働の可能性を探りました。



卒業論文 調査研究
瑞龍寺における狩野派の
絵画作品について
大野比奈(2018年度卒業)

富山県高岡市の国宝・瑞龍寺に残る、江戸時代の狩野派の絵画作品を研究しました。その画題の多くは、前田利常が利長の菩提を弔うもので、背景には後水尾天皇との交流や東西の一流の文化の影響があることを論じました。

アートで 社会に 訴える



卒業制作「#watercrisis」／芦田麻都佳(2019年度卒業)

複合領域

媒体芸術 | 芸術と工学 | 情報科学
言語・身体芸術

複合領域では、社会を取り巻く
様々なテクノロジーやメディア環境と
多様な芸術的表現を複合することで、
芸術と社会の新たな関係を創出する
開拓的な芸術の探求と実践を行います。



卒業制作／聴覚障害認定制度の問題点を当てたサウンドアート作品
宮崎里歩(2020年度卒業)



専門科目 メディアアートの授業
媒体芸術の基礎技術

映像、センシング技術、プログラミング技術等の基礎的な制御技術を実践し、メディアアートの基本的な考え方や表現手法について学びます。



卒業研究 心理学×視覚デザイン
キモチピクト
自己受容を補助するツール
釣本咲彩(2021年度卒業)

自己否定に悩む人に対して「感情ラベリング」という、感情を自主的に言語表現する心理療法があります。これを補助する道具として、様々な心理状態の可視化を図りました。人文学部心理学コースの先生方の助言を基に、漫画の記号表現と仕草を応用したピクトグラムです。



専門科目 データサイエンスの授業
“美”を科学的に測定する

古くは紀元前から、建築、機械や道具の仕様、あるいは美しいと感じられるプロポーションは、「人体」という普遍的な規格が創造の礎でした。人体を測定し、人の動作の基点やプロポーションを理解する。それが、様々な創造の「物差し」となるのです。



卒業制作 言語表現×ゲームデザイン
慣用句を完成させる
カードゲーム
長谷川七彩(2020年度卒業)

例えば「びっくり」することを表す慣用句には、「開いた口がふさがらない」「目をまるくする」などがあり、〈驚き方〉の感情が言い分けられます。こうした慣用句文化の豊かさを知るきっかけを作り、言葉による表現力を養うことをねらいとして制作されたカードゲームです。

芸文だからできる

『名物授業』

芸文では様々なユニークな授業が行われています。学内で繰り広げられる日々の授業の断片をピックアップ! 芸文の授業をどうぞご覧ください。

(授業名および授業内容はカリキュラム編成により変更となる場合があります)



【デザインプロジェクトG(サインデザイン)】

企業や施設と連携し実社会におけるサインデザイン制作を学ぶ授業。写真は氷見市海浜植物園内の壁面、学生の提案が採用されました。



【デザインプロジェクトB(クラフトデザイン)】

外部企業から提示されるテーマに対して、芸文のユニークな発想力と、つくりながら考える実践力を組み合わせて行う地域連携授業。



【工芸実習(金工)B】

この授業では、銅板を叩いて器の制作を行います。完成した作品は、プレゼンテーションカードとともに展示します。



【デザインプロジェクトA(デザインマネジメント)】

デザインを社会に幅広く適用するデザインマネジメントを学ぶプロジェクト。写真は富山県総合デザインセンターとの連携時の模様。



【風景資源論B】

この授業では、新しい観光のスタイルを学びながら、富山らしい風景を活用した観光企画をグループワークで作ります。



【芸文基礎演習B(自画像デッサン)】

デッサンやスケッチ課題を通して、アート、デザイン、建築のそれぞれの領域で必要となる「もの見方と伝え方」を学びます。



【キュレーション研究】

美学、美術史、伝統文化論、風景学などキュレーションの研究や実践に必要な知見を、文献調査や現場調査を交えながら学びます。



【絵画技法・材料演習】

絵画について、その描画材と基底材について基礎的な知識と経験を得る授業です。



【色彩基礎演習】

色彩学の入門として、色が見える仕組み、表し方、配色手法について、色彩検定3級レベルの内容を学びます。



【プロジェクト授業/LIVING ART in TOYAMA】

例年、8月末に富山市の大山地区で開催されるアートイベントです。芸文生がパフォーマーやサポートスタッフとして参加しています。



【芸文総合演習C(シェルター)】

富山県氷見市の里山に群生する氷見スギとタイベック、金物のみを使用して1坪程度のシェルターづくりに取り組みます。



【美術表現B(造形課題)】

基礎的な立体感を養い、素材特性を理解し、造形能力を身につける授業。紙の裁断・折り・曲げによって「紙の照明」を制作します。



【博物館実習】

掛軸、工芸品、額装など各種美術作品の基本的な取り扱い方や、梱包の仕方、展示方法など、学芸員として基本の技術を実習します。



【卒業研究・制作】

卒展を前に行われる最終講評会に学部外部からゲスト講師を招聘。学外の目からみた率直な助言と批評を得ます。



【デザインプロジェクトE(トランスポートデザイン)】

基本知識理解からコンセプト構築、発想と表現習得から応用までを著名な自動車メーカーの直接指導のもとで学ぶ、カーデザインの授業です。



【プロジェクト授業/リノベーション演習B】

映画のロケ地でも使用された富山県射水市の内川沿いの番屋をカフェとギャラリーにリノベーションしました。



【絵画実習B】

制作課題は「人物」。身近な人をモデルに画面構成を試みます。吹き抜けのエントランスはいつも作品発表の場となっています。



【デザイン展開(ビジュアルデザイン実習)】

チョコレートやキャラメルなどの食品パッケージデザインを題材にして社会における実践的なデザイン手法を学ぶ授業。



【デザイン入門】

課題の芸文TシャツはスタッフTシャツとして、芸文バッジは来場者用プレゼントとして、芸文のオープンキャンパスにて使用されます。



【造形芸術基礎演習】

解剖図資料や石膏模型を元に頭蓋骨をつくり、さらに肉付けをして最終的に自分の頭部の像(首像)を制作します。



【CG(DTP)に関する基礎演習】

代表的なDTPアプリケーションによるCG技能、印刷発注の方法を身につけます。課題は文庫本カバーのデザインと印刷用原稿制作です。



【デザイン基礎(ビジュアルデザイン演習)】

自分を紹介する自分チラシと自分ステーションナリーの制作を通して、ビジュアルデザインの基礎を習得します。



【まちづくり】

毎年、高岡のまちづくりに対する具体的な行動を授業課題としています。写真は高岡駅で開催したフラッシュモブの様子。



【プロジェクト授業/高岡クラフト市場街】

毎年、秋頃に高岡市で開催されるクラフトに関する総合イベントに企画段階から参加し、イベントコンテンツを盛り上げます。



【芸文基礎演習C(構造課題)】

スチレンボードで荷重に耐えられるタワーを制作します。限られた材料とユニット構造という制約の中で機能を実現する造形を探ります。



【プレゼンテーション演習】

人に伝える価値のある情報を見つけ、情報が発信される人と環境をふまえながら、伝わりやすい内容に情報を整理・演出する授業です。

入試は

『実技か小論文を選ぶ』

あなたは技能系？ 論理系？

得意な「募集区分単位」での選抜です

芸術文化学部では、2つの「募集区分単位」での入学者選抜を行っています。

右表のとおり、特別選抜（学校推薦型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜）、一般選抜（前期日程）、一般選抜（後期日程）、いずれの入試でも実技検査（鉛筆デッサン）と小論文のどちらか一方を選択する募集区分を設けて行います。入学した学生は本人の志望や適正を半期ごとに判断しながら、必要な領域の専門教育科目を自在に組み合わせ履修していきます。このオープンコース方式の学修を通じて、多様な選択肢の中から進路を決めていくことができます。

富山大学・入試情報 <https://www.u-toyama.ac.jp/admission/>



富山大学・入試情報・過去問題 https://www.u-toyama.ac.jp/admission/undergraduate-exam/past_exams/



特別選抜／学校推薦型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜 大学入学共通テストは課しません

区分	募集区分a	募集区分b
選抜方法	実技検査 [100点] (鉛筆デッサン) [3時間(180分)] 面接 [100点]	小論文 [100点] 面接 [100点]
募集人員	20名	15名

一般選抜／前期日程

区分	募集区分a	募集区分b
選抜方法	大学入学共通テスト [500点] (3教科3科目又は3教科4科目) 実技検査 [500点] (鉛筆デッサン) [3時間(180分)]	大学入学共通テスト [800点] (5教科6科目又は5教科7科目) 小論文 [200点]
募集人員	25名	30名

私費外国人留学生選抜については、入学者選抜要項を確認ください。

一般選抜／後期日程

区分	募集区分a	募集区分b
選抜方法	大学入学共通テスト [400点] (2教科2科目又は2教科3科目) 実技検査 [400点] (鉛筆デッサン) [3時間(180分)]	大学入学共通テスト [600点] (3教科3科目、3教科4科目又は2教科3科目) 小論文 [300点]
募集人員	10名	10名

上記は2022年度入学者選抜における情報です。[]は配点。

入試の詳細は、7月中旬に公表される入学者選抜要項を確認ください。

どこまでもひろがる、未来のはなし

『卒業生の活躍』

芸術や美術を学んだら、みんながアーティストやデザイナーになるわけではありません。
芸文の向こう側に広がる未来を、卒業生の活動から感じてください。



幅広い学びを通して得られたこと

彫刻家

山田千晶氏 | 美術領域(当時 造形芸術コース)卒業

総合的な履修で興味のある授業を幅広く学び、素材と制作へのヒントを得て、イメージを作品として実現させる力がついたと思います。また「人体造形研究会」という素描や彫塑のサークルを友人と一緒に立ち上げました。自分だけで完結せず、自力では無理な事もやりきれた経験が、今の自分を築いています。



商品の企画・開発に役立つ知識と技術

フロアディレクター | 株式会社ニトリ

栗井咲佳氏 | 工芸領域(当時 デザイン工芸コース)卒業

芸文では木工を中心に、デザインや設計、加工など、知識や技術を身に付けました。今は店舗で働いており、家具の構造や素材をお客様に伝える時に、芸文での学びが活かしていると感じます。将来は商品部に入り、大学で学んだ知識や技術を最大限に生かして、商品の企画・開発を行いたいと考えています。

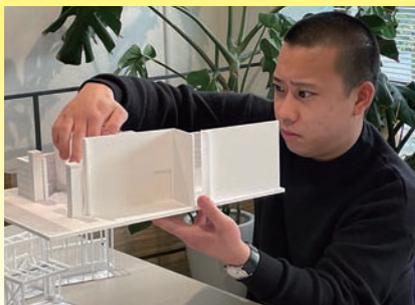


自分らしいセンスをアウトプットできる環境

アートディレクター | 株式会社VOICE

湯浅亜依氏 | デザイン領域(当時 デザイン情報コース)卒業

学生のうちから、いいものを見るということ。学生時代に培われたセンスは、将来みなさんの仕事に必ず役立ちます。いいものに触れて、見て、感じて、センスが型どられていく。それを磨いてアウトプットできる環境に、みなさんはいるのですから。いいものに、好きなものに、貪欲に向かっていってください。



少人数だからこそのじっくりとした指導

建築設計 | aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所

森田哲平氏 | 建築領域(当時 建築デザインコース)卒業
大学院(当時 芸術文化科学研究科)修了

芸文で最も思い出深いのは、小さな建築をチームで設計・施工する課題です。創りたい建築をどう創るか、先生方からじっくりと御指導いただけることは、学生数が少ない芸文の魅力の1つだと思います。そして何より、自然豊かな環境での学生生活が育ててくれた感性は、これからも仕事の助けになると思います。



故郷の理解とまちづくりの意義を、富山で学んだ

地方公務員 | 小松市役所(石川県)

山本美咲氏 | キュレーション領域(当時 文化マネジメントコース)卒業

地域文化やまちづくりに興味があり、文化政策や地域活性化を学びました。卒業では故郷の伝統的祭事を取り上げ、多岐にわたるまちづくりの複雑さ、面白さを感じるきっかけを得ました。授業や卒論の執筆を通して強まった、「地域を良くしたい!」という気持ちは、自治体職員として働く原動力になっています。



媒体は違っても誰かに何かを伝えるための思考は同じ

パッケージデザイナー | サクラボックス株式会社
細金真佑氏 | 美術領域(当時 造形芸術コース)卒業

大学時代に学んでいた油彩画では、「こういうことを伝えたい」という想いの元、制作していました。そして今、「こういう理由でこんな商品を作りたい」と会社の人にプレゼンし、お客様にその魅力をお伝えします。媒体は違えど、誰かに何かを伝えるにはどうしたらよいかを考える力が活かされているなど感じます。



技術の修得と座学のバランス

金属工芸士 | 自営業
池田晴美氏 | 工芸領域(当時 デザイン工芸コース)卒業

在学中は工芸の伝統技法の修得に懸命になっていました。学びは偏りがちですが、美術・工芸の座学もあり、希望する分野やそれに付随する知見を、社会的な面からも思考するきっかけになりました。芸文で多方面から学び培ったものは、独立して仕事をしている今では、とても心強いものになっています。



授業でのプレゼンテーションが培った伝える力

WEBプランナー、デザイナー | ヤフー株式会社 パーティカル統括本部 企画デザイン部
牧野和輝氏 | デザイン領域(当時 デザイン情報コース)卒業

プログラミングやDTPアプリケーションの基礎を演習で学べたことは、就職後のスタートダッシュにとっても役立ちました。また多くの授業でプレゼンテーションの機会があり、そこで学んだ「デザインの魅力を人に伝える力」は様々な業界と関わりながら、デザインを提案する今の業務にも活かしていると思います。



卒業研究の経験が仕事の成功につながる

商品開発 | YKK AP株式会社
東狐香央里氏 | 建築領域(当時 造形建築科学コース)卒業

卒論で「大学内の窓の熱負荷」について解析ソフトでシミュレーションし、各教室における最適な窓ガラス仕様について検証しました。この経験もあり、入社後に窓の通風性能の検証を任せられ、その結果は書籍化までされました。卒論執筆中、相談に乗ってくださったゼミの先生と仲間には感謝しています。



芸文は、ものをつくる人にたくさん出会える環境

学芸員 | 富山市ガラス美術館
高橋由佳氏 | キュレーション領域(当時 文化マネジメントコース)卒業

社会に出た今、普通はクリエイターと頻繁に出会えるわけではないんだと実感します。そんな中で、芸文時代の友人に絵を描いてもらったり、友人が主催するアートイベントに出かけたりして刺激をもらえるのは、芸術系の出身ならではのことで、今も、ものづくりで人と繋がっていることが励みになります。



芸文の就職率

主な就職先(2020年度卒業生)

三協立山、光岡自動車、スバル自動車工業、ダイハツ工業、コマーシー、富山スガキ、福島印刷、笹徳印刷、富山地方鉄道、富山テレビ放送、日本通運、石友ホーム、竹中工務店、鍛冶田工務店、日比野設計、空建築事務所、中央設計技術研究所、森下組、アッシュホーム、綜企画設計、群馬総合土地販売、アーキジオ、iALINK、松田電気工業所、マルニ木工、アイシン、石金製機、富山県水墨美術館、入善町役場、名古屋市役所、津幡町役場、大阪税関、箕面市役所、上越市役所、東根市役所

主な進学先(2020年度卒業生)

富山大学大学院、筑波大学大学院、京都芸術大学大学院、上智大学大学院



カペラガーデン美術工芸学校 スウェーデン王国

カペラガーデン美術工芸学校は、木工・織・染色・陶芸・演芸の4コースがあり、優れたつくり手と豊かなつかい手の育成を目指しています。美しい工房と宿舎での生活が、豊かな暮らしを作るこの意味を問いかける学校です。



芸文とつながる世界へ行こう！

『国際交流・留学』



ブラハ美術工芸大学 チェコ共和国

ブラハ美術工芸大学は1885年に創立。チェコ共和国内の芸術系大学の中でも最も歴史のある大学であり、建築、デザイン、芸術、応用芸術、グラフィック、美術史美学などの学部を擁しています。ガラス芸術をはじめとする東ヨーロッパの優れた芸術を学ぶことができます。





 **LAB応用科学大学**
フィンランド共和国

LAB応用科学大学(旧ラハティ応用科学大学、統合により2020年から大学名変更)は、前身であるラハティ・ポリテクニック(職能大学)時代から実学に重きを置いた教育を展開しています。デザイン学部においても、企業との産学協同プロジェクトをはじめ、実践力を身につける教育プログラムが組まれています。



もっと!!

芸文WEB「国際交流・留学」



 **パタナシン芸術大学**
タイ王国

タイ王国パタナシン芸術大学は、美術、工芸、デザイン、建築、舞踊、音楽といった幅広い教育を行っています。タイの伝統的な絵画、漆工芸、建築はもとより、現代的な感性が融合することで、アートやデザインのダイナミックな流れを肌で感じ、学ぶことができます。





『教員紹介』

バラエティーに富んだ教授陣

有田 行男 准教授

デザインマネジメント、コミュニケーションデザイン、プロダクトデザイン

岡本 知久 講師

広告コミュニケーションデザイン、ブランディングデザイン、タイポグラフィデザイン、タイプ(フォント)デザイン、エディトリアルデザイン

佐藤 弘隆 助教

メディアアート、デジタルアート

石川 将士 助教

工芸(鑄金)

小川 太郎 講師

漆芸

三宮 千佳 准教授

東洋美術史、日本美術史(古代~中世)、博物館学

伊東 多佳子 准教授

美学、芸術哲学、環境美学、環境芸術論

沖 和宏 准教授

視覚伝達デザイン

島添 貴美子 教授

民族音楽学、民俗芸能研究、伝統文化論

今淵 純子 准教授

彫鍛金技術による造形と技術研究、工芸教育

奥 敬一 教授

風景計画学、観光資源論、里山学

清水 克朗 准教授

美術鑄造

上原 雄史 教授

建築意匠、建築設計、アーバニズム

小田 夕香理 准教授

英文学

新谷 仁美 特命助教

漆芸、文化財修復

内田 和美 教授

プロダクトデザイン、トランスポートデザイン

河原 雅典 教授

人間工学、働態学

須田 久美子 講師

19世紀イギリス文学、英語教育関連分野

大氏 正嗣 教授

構造デザイン、数理的配置計画、木材の積層架構等



高橋 誠一 教授

漆工芸、漆造形、生活工芸

西島 治樹 教授

美術(メディアアート)

松村 浩之 講師

油画

田邊 元 講師

スポーツ人類学、民俗学、武術研究
民俗芸能研究

萩野 紀一郎 准教授

建築設計・保存・再生、インテリアデザイン

村田 聡 教授

石油化学、触媒化学

辻合 秀一 准教授

デジタルテクノロジー、Computer Graphics、
画像処理、ヒューマンインターフェース、複合現実感

林 暁 教授【富山大学卓越教授】

美学(漆工芸)

安嶋 是晴 准教授

文化政策論、伝統産業論、地域経営論

長柄 毅一 教授【芸術文化学部長】

金属材料学、金属材料加工学、文化財科学

平田 昌輝 講師

彫刻、塑造

簀谷 祐介 講師

コミュニティデザイン、建築計画

長岡 大樹 助教

芸術理論

藤田 徹也 准教授

情報処理

幸 亮太 講師

日本画

長田 堅二郎 講師

現代造形芸術、現代美術、立体造形

松田 愛 講師

西洋美術史、近現代美術論、アートマネジメント

横山 天心 准教授

建築意匠

渡邊 雅志 准教授

プロダクトデザイン、木材造形

